開校50周年 校訓:明るく・仲よく・たくましく「あ・な・た」を大切にする心のふるさとパリ日 depuis 1973

# BLA文化学院 パリ日本人学校



令和5年度学校だより 第15号 令和6年3月 | 日発行 パリ日本人学校 校長 伊藤 博

## "去る"3月(弥生・やよい)のスタート ~ 締めくくりをしっかりと!~

"逃げる"2月が過ぎ、"去る"3月となりました。2月にはインフルエンザ等による学級閉鎖や、農業団体等の抗議行動もなく、提言フォーラムをはじめ、各学年の現地校との交流会も無事行われ、胸を撫でおろしています。

さて、3月の別名は弥生(やよい)です。草木がいよいよ生い茂る月「きくさい やおひづき」が「やよい」となった説が有力のようです。

本校のバスロータリーに植えられている西洋スモモの木にも、ピンクの花がたくさん咲いています。動植物が厳しい冬を乗り越え成長する姿が、フランスの冬を乗り越えた本校児童生徒の | 年間の成長と重なって感じられます。子供たちはこの | 年で様々な面で成長しました。間もなく今の学年を終えようとしている姿は、たいへん頼もしく思えます。



3月の授業日は、あと10日。小学部6年生と中学部3年生は、卒業まであと5日です。いよいよ締めくくりの時です。日本には昔から「終わりよければすべてよし」と言う言葉がありますが、これは、シェイクスピアの戯曲「All's well that ends well」のタイトルのフレーズだそうです。残りわずかな日々ですが、しっかりと締めくくり、次年度につなげたいですね。

# 3月3日ひなまつり ~日本の伝統行事に触れよう!~

今年もホールにひな人形が飾られました。2月中に先生方が協力して飾りました。ひな祭りは、もともと中国の上巳の節句(じょうしのせっく)が起源で、人の代わりに人形に厄災をはらってもらい、川へ流す「流しびな」や、平安時代に宮中の女の子が遊んでいた人形「ひいな」などが由来となっているようです。

日本では、女の子の健やかな成長を願って、ひな人形を飾る家が多いようです。私は男三兄弟のため、ひな人形を飾った経験がありませんが、一つ一つの



人形がきめ細やかな出来栄えで、感心しています。本校では、5月にこいのぼりも飾ります。ひな人形も、こいのぼりも、どちらもパリ日の子供たちの成長を願って、毎年飾られます。この機会に、改めて日本の伝統行事について関心を深めていただけると嬉しいです。

# 土曜参観「提言フォーラム」実施

《小学部I·2·3年生 会場 大体育館》

2月3日、土曜参観「提言フォーラム」が大体育館で行われました。小学部 I、2年生は、サンカンタン池公園や校庭などの「へんしん」を発表。小学部3 年生以上は「パリパラリンピックを考える ~今のわたしと未来のわたし~」に ついて、初めてパワーポイントを活用して発表しました。どれも堂々とした発表





でした。そんな発表に、聞き手の子供たちから好意的な感想が数多く寄せられ、保護者の方からもたくさんの質問や感想をいただくことができました。子供たちも、マイクを片手に、一生懸命インタビュアーに努めました。

3年生は、初めてのパワーポイントでの発表にチャレンジしました。I学期にローマ字を習い、2学期にマロニエ原稿をローマ字入力で作成しましたが、パワーポイントは初めてでした。苦労もありましたが、一生懸命努力して発表資料を作成しました。本番でも堂々とした発表で、さすがに体育館の部の最上級生だと感心させられました。来年は4年生として、たくさんのお兄さんお姉さんたちと一緒に活動します。ますます楽しみです。



#### 《小学部4年生~中学部 会場 各教室》

全部で10の会場に分かれ、小学部4年生から中学部3年生までの学年が混ざったグループ編成で発表が行われました。トップバッターは初めてこの形式で発表する4年生でしたが、初めてとは思えないほど堂々とした発表が数多く見られました。これまでの成果を十分発揮していた様子が伺えました。

小学部5年生、6年生、そして、中学部と進むにつれて、充実度が増していきました。プレゼンの内容も素晴ら しかったですが、司会進行役の進め方や、意見交換の場での発言にも、光るものが多々見られました。



また、多くの保護者の皆様から感想や助言をいただくことができ、内に閉じない発表とすることができました。「会社で行うプレゼンに通じる」というお言葉を伺い、子供たちの発表が今後の「生きて働く力」につながることを確信しました。長時間にわたりご参観いただきましてありがとうございました。次年度も、ぜひご来校いただき、子供たちのためにたくさんのご示唆をいただけますようお願いいたします。

# 小学部6年生 社会見学 UNESCO 本部訪問

2月7日、小学部6年生が UNESCO 本部を訪問しました。あいにくの雨の中でしたが、職員の日下様、塩川様のご案内で、施設内外を見学させていただきました。総会用の会場では、まさに会議が行われていて、モニターを通じての見学でしたが、実際の会議の場面を目にすることができました。



会議場外に描かれたピカソの絵に、なぜ 署名がされていないか、ユネスコ本部内の 芸術品で一番高価だと言われているもの は、などについても教えていただきました。 また、イサムノグチの作った日本庭園も案内 していただきました。



後半は、会議室で質疑応答の時間となり、6年生がたくさんの質問を寄せていました。お二人の職員の方が、自分の専門分野での立場から答えてくださいました。6年生の事前学習のレベルの高さに驚くとともに、たいへん丁寧にご対応いただいた、日下様、塩川様に改めて感謝を申し上げます。

ランチタイムはエッフェル塔を望むカフェテリアで、自分の好きなメニューを注文しました。UNESCO オリジナルのお土産を買えた人もたくさんいて、心に残る社会見学となりました。

## 国際理解教育講演会 「未来をつなぐ異文化の冒険」

#### ~中学生のためのイスラエル&パレスチナ入門~



2月22日、中学部対象の国際理解教育講演会が開かれました。昨年10月に起きたパレスチナとイスラエル間の紛争が長期化し、戦争状態となっています。ほとんどの日本人にとって、パレスチナとイスラエルの問題は遠い国の出来事で、実際どのようなことが起きているのか、よく分からないというのが現実かと思います。

そこで、本校の保護者であり、イスラエルについての研究を専門とされている鴨志田聡子先生に講演をお願いしました。なお、講演に先立ち、本校校長が、過去に中東の「クウェイト日本人学校」(当時の学校名の表記は「クウェイト」)に勤務していた経験から、「パレスチナ人の視点から見た世界」~クウェート滞在の経験から~という題でお話をしました。

校長からは、滞在中に経験した暮らしのことやイスラム教のこと、そして、知り合ったパレスチナ人についての話がありました。最後に、「双方の歴史や背景を正しく理解すること」「一気に解決しようとせず、できることから始めていくこと」、そして、「1945年8月15日以降、戦争で他国人を一人も殺傷していない日本人だからこそできることがあるかも」というまとめがありました。

鴨志田先生からは、実際にイスラエルで出会った多くのユダヤ人、パレスチナ人との交流を、多くの画像を交えて紹介していただきました。また、イスラエルとパレスチナの問題を、「特別なイチゴがのったケーキの分け方」というたとえを使って分かりやすく説明していただきました。

最後に、自分の知らない世界の人たちを理解するのためのポイントとして、「文化や考え方に触れる」、「自分で調べる」(歴史、地理、文化、食べ物、習慣、言語、宗教など)、「友だちや知り合いになって、よく話をきく」 (何を大切にしているのか)、「その国や地域に行く」、「言語を学ぶ」というまとめがありました。

今回、保護者の方も15名ご来校され、たいへん有意義な時間を過ごせました。ありがとうございました。

### 中学部交流会実施 サン・シャルル・ノートルダム中学校来校



2月28日、中学部の交流校である、サン・シャルル・ノートルダム中学校の生徒さんが来校しました。前回の II月には相手校を訪問し、今回はその時に交流を持った生徒さんたちでした。

最初に体育館で本校校長から日本語の「いただきます・ごちそうさま」についての講話があり、次にお互いが自己紹介をした後、大縄跳びや「どろけい」という鬼ごっこで共に汗を流しました。大縄跳びの経験がないフランス人も多く、最初はうまく跳べなかったのが、アドバイスによって跳べるようになっていきました。

ランチタイムは和食の調理にチャレンジしました。メニューは、肉じゃが、ほうれん草のごま和え、かきたま汁で、おにぎりは中学部3年生が計100個握ってくれました。まさに中学部総出のおもてなしでした。

午後は、本校の藤井先生による書道教室と日本の昔の遊びの体験をしてもらいました。書道では「和」という字を真剣に書く姿が印象的でした。昔の遊びでは、最初なかなか上手にできないフランス人生徒が、パリ日生のアドバイスによってできるようになっていくのが素晴らしかったです。

サン・シャルル・ノートルダム中学校は、フランスに多いカトリックの私立学校で、本校とは異なる教育内容を行っています。今回交流を持ったのは、日本語を学ぶ生徒さんたちです。閉会式では、日本語でのお礼のスピーチや、日本語の歌を披露していただきました。

対する本校の生徒たちも、たいへん心のこもったおもてなしぶりで、相手校の校長先生はじめ、ご来校された先生方からも感謝の言葉をいただきました。中学部の皆さん、ありがとうございました。



# 「6年生を送る会」実施 〜延期されてさらに充実!〜

2月28日、「6年生を送る会」が開かれました。2 月22日に実施予定でしたが、欠席者が多く延期されました。小学部 I 年生から5年生までが、それぞれ贈り物を用意し、工夫した出し物で6年生へ感謝の気持ちを伝えました。出し物やメッセージからは、「頼れる」「あこがれ」「優しい」という言葉が聞かれ、これまでの6年生への「感謝」の気持ちが十分に伝わってきました。

6年生からも、各学年にしっかりとしたメッセージ と、プレゼントが贈られました。欠席者が多く、なか



なか準備や練習がうまくできなかった中、5年生を先頭に、送る側が一生懸命に取り組み、送られる6年生も、 パリ日の良い伝統をバトンタッチしてくれました。小学部の皆さんに大きな拍手を送りたいと思います。

## PGPM "世界一大きな絵 パリ 2024" のプロジェクトに参加!

#### PGPM は【世界一大きな絵】の仏語"La Plus Grande Peinture au Monde"の略語

特定非営利活動法人アース・アイデンティティー・プロジェクツ代表理事の河原裕子様から、「世界一大きな絵」のお誘いを受け、日仏約100校が参加するプロジェクトに参加することとなりました。長谷川先生を中心に、各学年とも制作中です。締め切りが3月末までということで、卒業式や修了式を控えている本校にはハードルが高い取り組みですが、2024年のパリオリンピ



ック・パラリンピックを記念して、パリで行われるプロジェクトということで、困難な中、どの学年も一生懸命に取り組んでいます。

|メートル×5メートルの布5枚に、学年ごとに描くスペースを決めて取り組んでいます。主催者からは、インクルージョン、共生、ダイバーシティ、またはパラリンピックといった要素を加えてほしいという要望が寄せられ、目下デザインを工夫して描いています。

完成した絵は、まず5月にパリの日本文化会館に飾られ、6月からはパリ15区の施設で全ての絵をつなぎ 合わせて展示される予定です。また、7月20日実施の、パリ海外文化機関フォーラム(FICEP)主催の文化オ

リンピアードのメインイベント【I 日で廻る世界一周の旅】に、「世界一大きな絵」の参加が決まったそうです。さらに、10月にパラリンピック後のパリで、再度一枚の大きな絵にした大イベントを開催予定だそうです。詳細については、後日お知らせします。今から完成が楽しみです。



(左 台湾での取組 右 群馬県伊勢崎市での取組)

## "特集"開校 50 周年記念 ~パリ日の「宝」~第2部

【第9回】「パリ日の運動施設」

パリ日には一周 180 メート ルのトラックを持つ運動場の 他、大体育館と小体育館、校 庭の鉄棒や遊具、低学年ホー ルの鉄棒など、運動ができる



場所がたくさんあります。これまでパリ市内やパリ近郊のいくつかの私立学校や公立学校を訪問してきましたが、パリ日のように運動が十分できる施設設備を持つ学校は少ないです。1000 人以上の生徒が通う学校でも、小さな中庭にバスケットゴールがあるだけ、という場合もあります。私がかつて勤務していたクウェイト日本人学校は、狭い中庭があるだけで、体育館はなかったです。

パリ日がトロカデロ校舎から、このサンカンタン校舎に移転する際、当時の強い願いが「のびのびとした教育を受けさせたい」というものでした。トロカデロ校舎では、中庭で子供たちの声がうるさいと、上の階の住人が窓から生ごみを投げつけた話が伝わっています。今のパリ日ではそんなことは起きません。毎日当たり前のように使っている運動施設、実はパリ日の「宝」ではないでしょうか。